



JSQC ニュース

CONTENTS

- 1-トピックス 坂根 正弘氏がANQ「Ishikawa-Kano Award Gold Medal」を受賞!
- 2-私の提言 JABEEへのとりくみ
- 2-ルポルタージュ 第417回事業所見学会ルポ
- 3-永田 靖氏デミング賞本賞を受賞/デミング賞/8月の入会者紹介/論文募集
- 4-行事案内/各賞表彰

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

坂根 正弘 氏がANQ「Ishikawa-Kano Award Gold Medal」を受賞!

村川技術士事務所 村川 賢司

本学会の第41年度会長で名誉会員である坂根正弘氏（小松製作所相談役特別顧問）は、アジア圏の17組織で構成するANQ（Asian Network for Quality）が創設したIshikawa-Kano Award Gold Medalを受賞されました。その授与式が2019年9月4日（水）に（一財）日本科学技術連盟において執り行われました。

Ishikawa-Kano Award Gold Medalは、品質マネジメントと実践の両面において秀逸した個人を表彰するために故石川馨先生と狩野紀昭先生（ANQ名誉会長、東京理科大学名誉教授）の名を冠して2010年に創設されたIKA（Ishikawa-Kano Award）を発展し、2018年に新設された名誉ある賞です。

授与式は、棟近雅彦JSQC会長の開会に始まり、IKA委員会のJanak Mehta委員長によるIKA発展の経緯と意義の



紹介の後、IKA授与者である石川馨先生ご家族にPanisuan Jamnarnwej ANQ会長とJanak Mehta氏から記念メダルが贈呈され、ご息女の黒川裕子氏が代表して謝辞を述べられました。

引き続き、Ishikawa-Kano Award Gold Medalの栄えある初受賞者である坂根正弘氏に、石川馨先生ご家族と狩野先生のご臨席のもと、Panisuan Jamnarnwej氏とJanak Mehta氏から賞状とメダルが授与されました。

坂根氏は、JSQC会長として国際活動の積極化に尽くし、香港で開催されたANQ大会でJSQCから48件の発表や、若手のANQ発表支援にも心を砕きました。また、日本科学技術連盟や国際品質アカデミー活動推進に努め、品質管理の国際的な普及発展に尽力しました。

坂根氏は記念講演において、企業価値の創造に向けて自ら率先し範を示してきた事柄を紐解きながら、企業価値、これを構成する価値観、そしてこれらを実現する行動様式を高めていくことが、経営力を高める要諦であると強調しました。そして、企業価値は社会を含むすべてのステークホルダーからの信頼度の総和であると定義づけ、その最大化に挑みました。

このために、ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負する戦略を主導しました。その歩みは、先ず「ダントツ商品」のための機械本体の性能面での商品力向上に



力を注ぎました。次に「ダントツサービス」のためのKOMTRAXなど機械の見える化による現場サービス力の向上に努めました。そして、「ダントツソリューション」を指向するスマートコンストラクションなど施工の見える化による顧客の課題解決に当たりました。

坂根氏は、企業価値の最大化には、根幹となるコマツウエイのもとで、TQMとESG（Environment, Social, Governance）を基盤に、顧客・社会などステークホルダーになくはない存在になるための顧客価値を創造するビジネスモデルの変革が肝要であると述べ記念講演を締めくくりました。

棟近雅彦JSQC会長は閉会に当たり、坂根氏の益々のご活躍を祈念するとともに、遠路来日されたANQ代表者の方々へ謝意を表し、授与式を閉じました。

坂根正弘氏が栄誉あるIshikawa-Kano Award Gold Medalを受賞されましたことに心からお祝いを申し上げます。

● 私の提言 ●

JABEEへのとりくみ

明治大学 永井 義満



マネジメントシステム規格については、ISO 9001やISO 14001の認証を取得している組織が数多く存在していますが、マネジメントと教育を結びつけるのにアレルギーがあるからかもしれません。教育機関では積極的に認証を取得しようという動きはありません。しかし、世の中の動きには逆らえず、2000年代に入ると認証評価制度が始まり、大学も認証評価を受けることが当たり前になってきました。各大学のWebページを覗いてみると、「〇〇の認証を受けました。」という記事や認

証マークを見ることができます。そうした中で、技術者を育成する教育プログラムについてJABEE（ジャビー、日本技術者教育認定機構）による認証評価があります。これは、学科（さらに細分化されている場合もあります）の教育プログラムが国際的に通用する知識と能力を身につけた技術者を育成しているかを審査されるものです。また、学生は卒業すると国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。こうした点から自分たちがJABEEという資格を取得したと思っている学生もいます。卒業生を認定プログラム修了生と呼ぶことが勘違いの原因かもしれません。

私の所属学科もJABEEから認定を受けており、数年（3年ないし6年）ごとに審査を受けています。学科として

PDCAサイクルを意識した教育の改善に取り組んでおり、授業に関してはシラバスが学生との契約書であるとの立場に立ち、講義計画に変更が生じた場合は直ちに修正した講義計画を示さなければなりませんし、成績評価に関しては、エビデンスに基づいた評価が求められています。つまり、誰が評価しても同じ成績になるようにしなければいけません。不合格になった科目に追加レポートを提出したら単位が取れたという昔話（今もありますか？）は存在しません。

こうしてめでたく(?)認定を受けているわけですが、あくまでも国際的に通用する知識と能力を身につけた技術者を育成する組織の枠組みができただけにすぎず、ともすれば、仏作って魂入れずになりかねません。学生がJABEEの認定を受けた学科を活用してこそJABEE認定の存在意義があると思うのですが、この懸念が払拭されないため今回のタイトルも「JABEEのすすめ」とすることができませんでした。

第417回 事業所見学会 ルポ

(株)日立製作所 笠戸事業所

7月2日火曜日に山口県下松市にある株式会社日立製作所の笠戸事業所を12名で訪問した。梅雨時で天気はあいにく曇り空だが終了まで雨が降ることも無く、無事に工場見学が出来た。

初めに会議室で世界一のマザー工場を目指す鉄道車両製造の笠戸事業所紹介ビデオを約20分程拝聴、その後見学中の注意事項の説明を受けて全員ヘルメットとワイヤレスガイドを付け、移動用のバスに乗り込んだ。

今回の見学は私たちの生活に欠くことが出来ない車両が生まれる場所である構体工場と艀装工場、そして歴史記念館の順で廻った。

構体工場では、新幹線のぞみの車両組立を見学した。アルミ製の台枠に先頭部、側、屋根、妻がつなぎ目に凸凹が無いくらい綺麗に組立てられていた。工場内はワイヤレスガイドから聞こえてくるはずの

説明員の声が聞こえないくらい組立時の音が物凄かった。まちかで見たと新幹線の構体だけの状態は、いつも見ている新幹線よりもとても大きく、内部も広く感じた。

艀装工場では、床下機器や電気配線の取付作業を見学した。普通に立っていてもヘルメットがぶつかってしまう低い高さで上を見ながらの作業はとても気を使うことが多いと思った。こうした作業のひとつひとつが安心・安全な乗り物製造につながっていると実感した。その他、工場内の移動中に東北新幹線、つくばエクスプレスなど様々な車両をまちかで見学することができた。

最後の歴史記念館では、笠戸事業所成り立ちの創業1917年からの説明があり、説明後は記念館内部に展示されている貴重な展示物を自由に見学した。私たちの生活が快適で安全に暮らすことができるのも鉄道車両製造に携わってきた多くの関係者の努力によるものだと感謝しながら今回の見学を終了した。

最後になりましたが、ご多用中にも関わらず日立製作所笠戸事業所の関係者の皆様が丁寧にご対応いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

笹崎 正生 (クオリ力株)

永田 靖 氏・元本学会理事 今年度デミング賞本賞を受賞

第30年度～第32年度、第35年度～第36年度、第41年度～第46年度に本学会の理事・監事を務められた永田靖氏が今年度のデミング賞本賞を受賞されました。同氏は、熊本大学工学部講師、岡山大学経済学部助教授・教授を経て、1999年早稲田大学理工



学部（現：創造理工学部）教授として現在に至っています。

研究・教育に従事し、学科長・専攻長として早稲田大学の運営に尽力すると共に、応用統計学会会長、日本品質管理学会理事、両学会誌の編集委員長、デミング賞審査委員会副委員長などの要職を歴任されてこられました。

統計科学の分野で多数の学術論文や書籍を刊行し、日経品質管理文献賞7件、日本品質管理学会最優秀論文賞2件をはじめ、多くの学会賞を受賞しています。著書『統計的多重比較法の基礎』、『サンプルサイズの決め方』、『工程能力指数』は、自身の研究成果を含めたオリジナルな専門書であり、また、『入門統計解析法』、

『入門実験計画』、『多変量解析法入門』は統計的品質管理のバイブルとして広く読まれています。



永田氏は、以上のような統計的方法に関するの広い視野と高いレベルで研究・教育・社会啓発を通じて、学界、産業界、品質管理界など多方面にわたって、TQMの発展、普及に顕著な貢献をされました。

本学会としても、同氏の功績が認められてデミング賞本賞を受賞されたことは大変名誉なことです。誠にめでたうございました。

デミング賞委員会（委員長 中西 宏明）において、2019年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月6日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞大賞
トヨタ自動車九州株式会社（福岡県宮若市）
2. デミング賞本賞
永田 靖 氏 早稲田大学 創造理工学部経営システム工学科 教授
3. デミング賞普及・推進功労賞（海外）
Mr. Venu Srinivasan
Chairman & Managing Director,
TVS Motor Company Limited & Sundaram-Clayton Limited
3. デミング賞（組織名五十音順）
Elgi Equipments Limited（インド）
シロキ工業株式会社（愛知県豊川市）
Siemens Gamesa Renewable Power Private Limited,
Manufacturing Units-India（インド）
JSW Steel Limited, Salem Works（インド）
Larsen & Toubro Limited, Electrical & Automation IC, Product SBG,
Electrical Standard Products SBU and New Product Development（インド）
4. 日経品質管理文献賞（文献名五十音順）
 - (1) 「ISO運用の“大誤解”を斬る！
—マネジメントシステムを最強ツールとするための考え方改革—」
飯塚 悦功、金子 雅明、平林 良人 編著
 - (2) 「開発者のための市場分析技術
—顧客を洞察するための分析アプローチ—」
丸山 一彦 編著、杉浦 正明 著
 - (3) 「JSQC選書29 企業の持続的発展を支える人材育成
—品質を核にする教育の実践—」
一般社団法人日本品質管理学会監修
村川 賢司 著

2019年8月の 入会者紹介

2019年8月9日の理事会審議において、下記の通り正会員2名、準会員1名の入会が承認されました。

（正会員2名）○岩田 拓也（産業技術総合研究所）○福田 陽一（住友重機械工業）

（準会員1名）○植中 隆平（近畿大学）

名誉会員：23名
正会員：1813名
準会員：85名
職域会員：50名
賛助会員：142社184口
賛助職域会員：7名
公共会員：18口

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

行 事 案 内

●第49回年次大会・早稲田大学（本部）

日 時：2019年11月23日(土・祝)

プログラム：

10:00～11:00 通常総会／各賞授与式

11:00～12:00 報告講演

1. 不祥事の緊急メッセージ

「品質立国日本再生」に向けての提言の意図説明

2. 品質誌あり方検討WGの中間報告

3. JSQC創立50周年に向けた学会名称

変更に関する会員アンケートについて
会長 棟近 雅彦

13:00～18:20 研究発表会

18:30～20:00 情報交換会・優秀発表賞表彰

申込締切：2019年11月15日(金)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r011123>

●第139回講演会（東日本）

テーマ：ばらつきからみた品質管理の体系

—ばらつき退治のこれまでとこれから—

日 時：2019年12月5日(木)13:25～17:00

会 場：日科技連東高円寺ビル地下2階研修室

定 員：60名

プログラム：

講演1：ばらつきからみた品質管理の体系
仁科 健氏（愛知工業大学）

講演2：産学連携活動からの発信

中部支部産学連携研究会の活動報告

川村 大伸氏（名古屋工業大学）

学からの発信—IoT×AI時代における

統計的品質管理手法の展開—

川村 大伸氏（名古屋工業大学）

産からの発信—幾何特性の工程解析

における問題提起と改善事例—

小川 文子氏（ナブテスコ）

申込締切：2019年11月28日(木)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h311205>

●第421回事業所見学会（関西）

テーマ：食品製造における安全・安心、

品質保証の体制、取組み

日 時：2019年12月5日(木)13:00～15:40

見学先：オリエンタル酵母工業(株) びわ工場

定 員：30名

申込先：関西支部事務局

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h311205_2

●第419回事業所見学会（西日本・福岡）

テーマ：商品の企画段階からお客様のもとへ

お届けするまで、そしてお届けした後も

—創立以来の想いを胸に、絶え間ない

革新と挑戦で新たな生活文化を創造—

日 時：2019年12月19日(木)13:00～17:00

見学先：TOTO(株) 小倉第一工場

定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先：本部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h311219>

●JSQC規格「日常管理の指針」講習会（西日本・福岡）

日 時：2019年12月20日(金)13:15～16:50

会 場：リファレンス駅東ビル2階会議室 T

定 員：30名

講 師：中條 武志氏（中央大学）

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h311220>

●第116回クオリティトーク（東日本）

テーマ：リアル事例で学ぶ失敗しない商品企画
—P7、Neo P7の実践法—

ゲスト：小久保 雄介氏（成城大学）

日 時：2020年1月27日(月)18:30～20:30

会 場：日科技連 東高円寺ビル 3階A研修室

定 員：30名

申込先：本部事務局

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020127>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003

東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL：052-221-8318

FAX：052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

新藤田ビル11階

日本科学技術連盟内 大阪事務所内

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

各賞表彰

第49回通常総会において、第48年度最優秀論文賞、研究奨励賞、品質技術賞 各1件、品質管理推進功労賞3氏の授賞および表彰が行われます。

【第48年度 最優秀論文賞】

『与薬事故におけるプロセス要因の特定方法の提案』

蓮井 涼祐 氏（早稲田大学 理工学術院（現）新日鉄住金ソリューション(株)）

棟近 雅彦 氏（早稲田大学 理工学術院）

梶原 千里 氏（早稲田大学 理工学術院（現）静岡大学）

〔品質〕 Vol. 49, No.1, pp.82-94 (2019)

【第48年度 研究奨励賞】

小茂田 岳広 氏（東京工業大学 工学院経営工学系）

『2値入出力系で計量値を観測する場合の系間の性能比較に関する有意差検定』

著者：小茂田 岳広／宮川 雅巳〔品質〕 Vol. 49, No.3, pp.59-65 (2019)

【第48年度 品質技術賞】

森 輝雄 氏（森技術士事務所）

『カンファレンス行列と2水準ノイズを用いた直交計画によるパラメータ設計』

著者：森 輝雄／貞松 伊鶴／松浦 峻／田中 研太郎〔品質〕 Vol. 49, No.3, pp.66-78 (2019)

【2019年度 品質管理推進功労賞】

野尻 節雄 氏 前田建設工業(株)

松田 啓寿 氏 松田技術士事務所（元 ダイワ精工(株)）

綿民 誠 氏 (株)ジェイテクト